

次の文章は『大鏡』の一節で、娘彰子の産んだ皇子を東宮（＝皇太子）にしたいという道長（＝殿）の本心に気づいた現東宮が、帝として即位もしないうちに東宮の退位を決意した場面である。東宮は、父三条院が亡くなってからは、使用人までもが道長に気兼ねして御所に寄りつかないなど、寂しい生活を送っていた。一方世間では、道長の娘である御匣殿と東宮が結婚するのではないかとといううわさが流れ、そのうわさを聞いた道長も、東宮が御匣殿との結婚を申し込むのではないかと心配していた。これを読み、あとの問に答えよ。

（40点）

- 1 \*皇后宮にも\*かくとも申したまはず、ただ御心のままに、殿に御消息聞こえむと思し召すに、むつまじうさるべき人もものしたまはねば、\*中宮権大夫殿のおはします\*四条坊門と\*西洞院とは宮近きぞかし、それはかりを、「こと人よりは」とや申し召しよりけむ、\*藏人なにかしを御使にて、「1あからさまにまゐらせたまへ」とあるを、思しもかけぬことなれば、aおどろきたまひて、「なにしに召すぞ」と問ひたまへば、「申させたまふべきことのさぶらふにこそ」と
- 5 b申すを、「この\*聞こゆることどもwにや」と思せど、「退かせたまふことは、さりとて2よにあらじ。御匣殿の御ことならむ」とc思す。いかにもわが心一つには、思ふべきことならxねば、「おどろきながらまゐりさぶらふべきを、おとどに案内申してなむさぶらふべき」と申したまひて、まづ、殿にまゐりたまへり。「東宮より、しかじかなむ仰せられたる」と申したまへば、殿もおどろきたまひて、「何事ならむ」と仰せられながら、3大夫殿と同じやうにぞ思しよらせたまひける。「まことに御匣殿の御ことのたまはせむを、4いなび申さむも便なし。まゐりたまひyなば、また、さやうにあやしくてはあらせてまつるべきならず。また、5さては世の人の申すzなるやうに、東宮退かせたまはむの御思ひあるべきならずかし」とはd思せど、「しかわざと召さむには、6いかでかまゐらではあらむ。いかにも、のたまはせむことを聞くべきなり」と7申させたまへば、まゐらせたまふほど、日も暮れぬ。

## 注

\*皇后宮Ⅱ東宮の母。東宮の退位に反対していた。 \*かくⅡ退位を決めたこと。 \*中宮権大夫殿Ⅱ道長の四男、藤原能信よしのぶ。 \*四条坊門・西洞院Ⅱどちらも能信の住まい。 \*藏人みどうかんながしⅡ道長の日記『御堂関白記』には、この時の使者は源行任だったと記されている。 \*聞こゆることどもⅡ東宮が退位するとかしないと、道長の娘御匣殿を嫁に迎えるつもりだったといった、さまざまな世間のうわさ。

問一 傍線 a ～ d の主語を、それぞれ文中から抜き出して記せ。

(4点)

問二 波線 w ～ z と同じ意味・用法の語をそれぞれ次の中から選び、記号を記せ(同一記号の反復使用不可)。

(4点)

ア 今宵は十五夜なりけり。

イ もの知らぬことなたまひそ。

ウ 世の中にさらぬ別れのなくもがな。

エ 月の都よりかぐや姫を迎へにまうで来なる。

オ 御身はもはや疲れさせ給ひ候ひぬ。

カ かくて翁やうやう豊かになりゆく。

問三 傍線 1・2・4・6 を口語訳せよ。

(20点)

問四 傍線 3 とあるが、具体的にはどういうことを思ったのか、説明せよ。

(5点)

問五 傍線 5 の内容として最適なものを次の中から選び、記号を記せ。

(4点)

ア 中宮権大夫殿が東宮のところに参上するとしたら

イ 東宮と御匣殿を結婚させないということになったならば

ウ 皇后宮がこれまで以上に東宮の退位に反対したとしたら

エ 御匣殿を東宮に差し上げて華やかな生活をさせ申し上げたならば

オ やはり東宮が退位なさるはずはないという世間のうわさどおり

## 問六

傍線7に使われている敬語の説明として正しいものを次の中から一つ選び、記号を記せ。

(3点)

- ア「申さ」と「まゐら」は中宮権大夫殿、「せたまへ」は殿、「せたまふ」は東宮に対する敬意を表している。
- イ「申さ」と「せたまふ」は中宮権大夫殿、「せたまへ」は殿、「まゐら」は東宮に対する敬意を表している。
- ウ「申さ」は東宮、「せたまへ」「せたまふ」は殿、「まゐら」は中宮権大夫殿に対する敬意を表している。
- エ「申さ」は殿、「せたまへ」「せたまふ」は中宮権大夫殿、「まゐら」は東宮に対する敬意を表している。
- オ「申さ」と「せたまふ」は殿、「せたまへ」は東宮、「まゐら」は中宮権大夫殿に対する敬意を表している。